

せとうち美術館ネットワーク 特別講演会 2016



美術館教育へのアプローチ
～ワークショップほかHands-On, VTS, AL…手法を探る～

2016.11.27

前田ちま子

項目

- 1 ニューヨーク近代美術館 (MoMA=Musem of Modern Art)
ビクトル・ダミコ：ワークショップ Workshop
- 2 対話型鑑賞法 VTS = Visual Thinking Strategies
ニューヨーク近代美術館
- 3 こども博物館：ハンズオン Hands-on
Interactive Approach: Hands-on + Minds-on
- 4 子どもの城：ワークショップ=展示・体験・制作
- 5 博学連携：初めて出会う作品への興味と関心
 - ・博物館、美術館、児童館、回想法センターなど他機関の交流
 - ・雑録的観察眼+動的鑑賞学習
- 6 アクティブ・ラーニング：Active Learning
 - ・ワークショップの企画
 - ・英語による美術の学習および美術による英語の学習方法
　－ワークショップ環境における協同学習の視点から－

3 こども博物館：ハンズオン Hands-on Interactive Approach: Hands-on + Minds-on

こども博物館のハンズオン

インターラクティブ・アプローチ

・こども博物館 Children's Museum, Boston

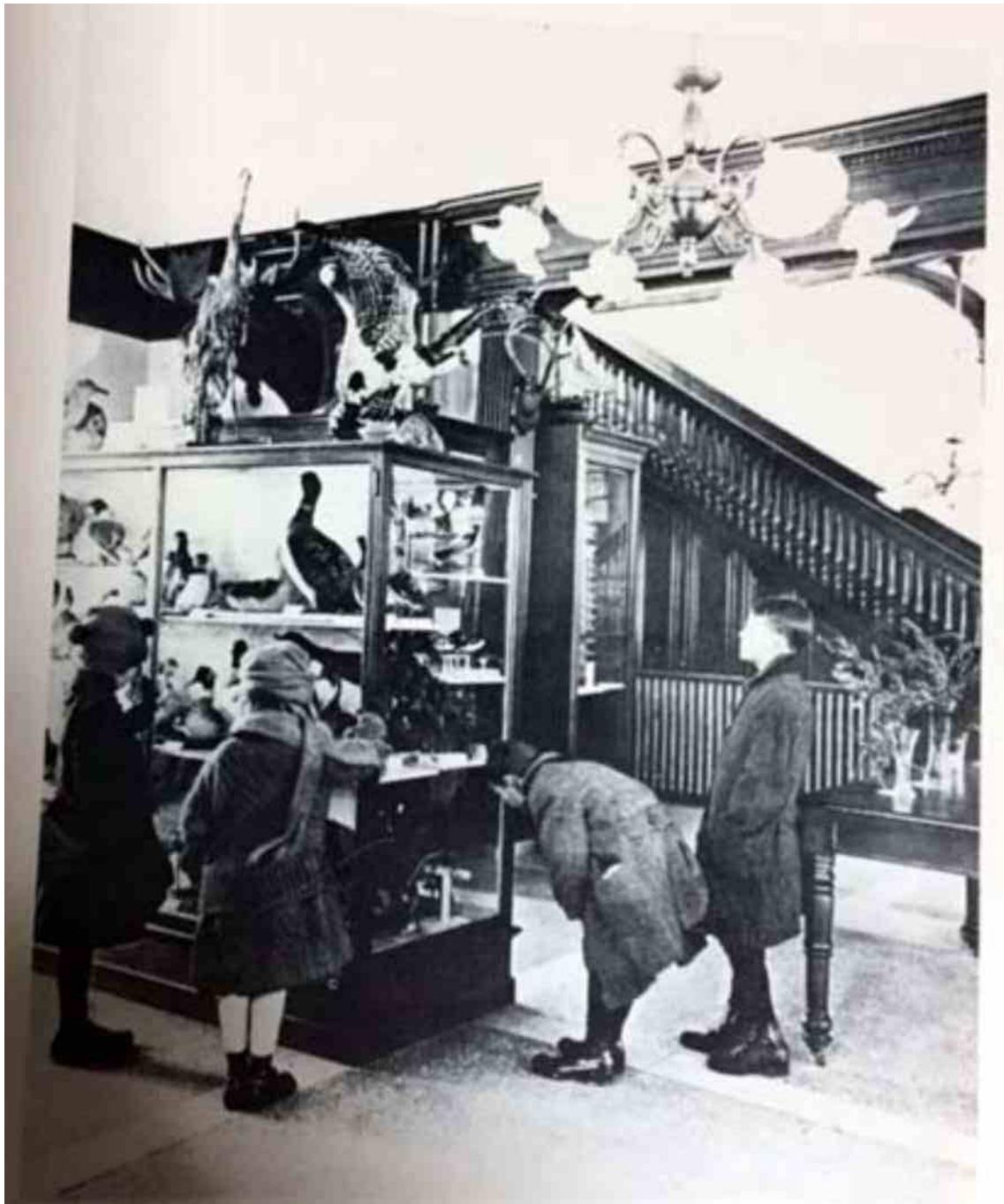
- 参加体験型の展示を伴うハンズオン、マイinzオン
- エデュテイメント (Edutainment)
※エンターテイメントと教育を融合させた
- 行なうことによって学ぶ Learning by Doing
ジョン・デューイ

ボストンこども博物館

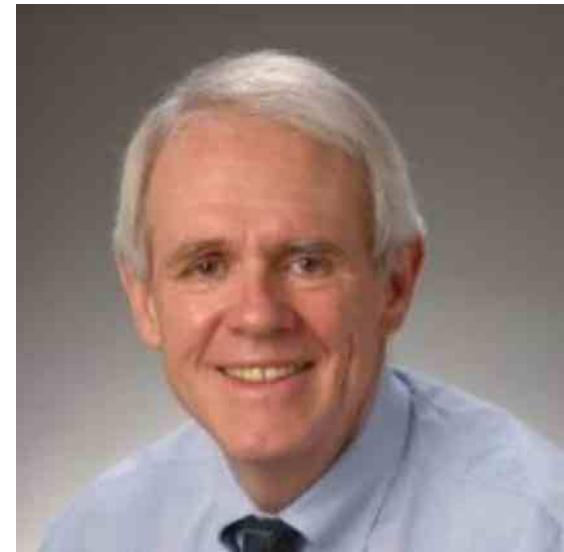




Boston Children's Museum カタログより



Boston Children's Museum カタログより



マイケル・スパック

ボストンこども博物館
館長1962-1985

Michael Spock is hired to direct the Museum. The Museum he inherits has traditional glass-case exhibitions and declining attendance.



1962

Boston Children's Museum HPより

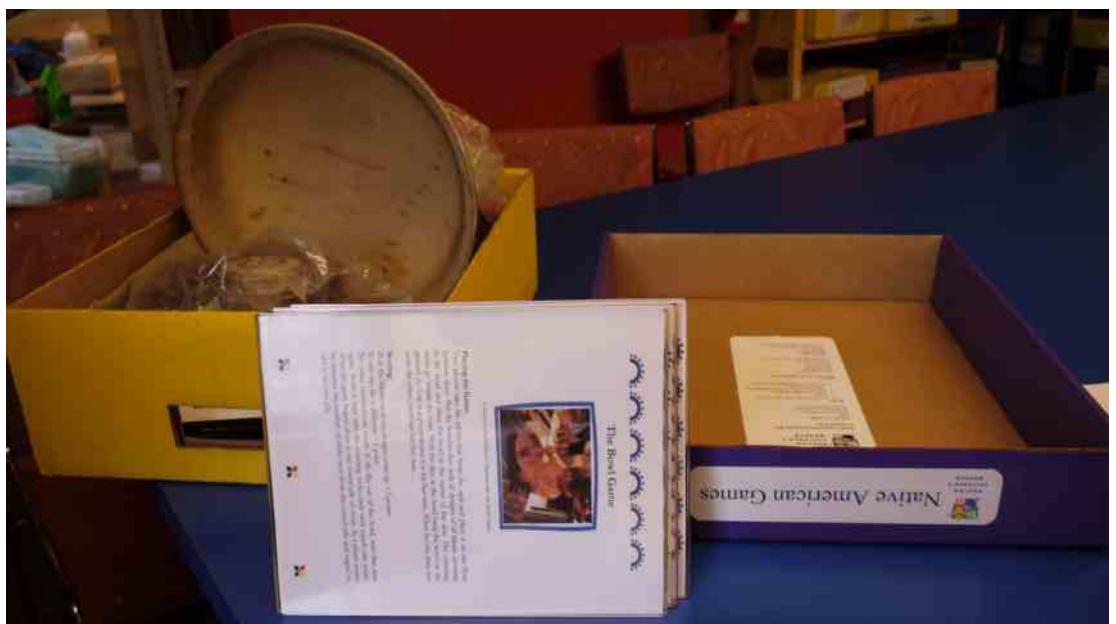
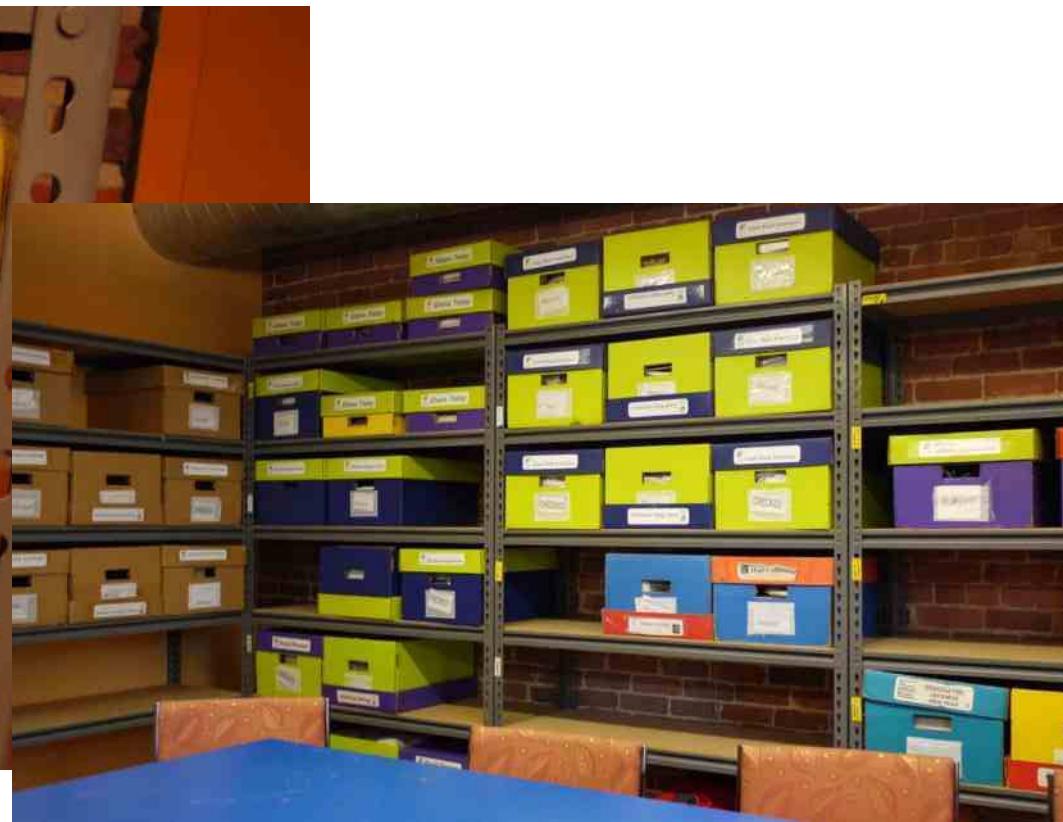
1964

Boston Children's Museum staff develops MATCH Box kits (Materials and Activities for Teachers and Children) that bring real materials and hands-on learning to classrooms. Titles include Grouping Birds, Animal Camouflage, Netsilik Eskimos, the House of Ancient Greece, and Paddle to the Sea.





リーズナブルで実質的なプログラムキット



1964

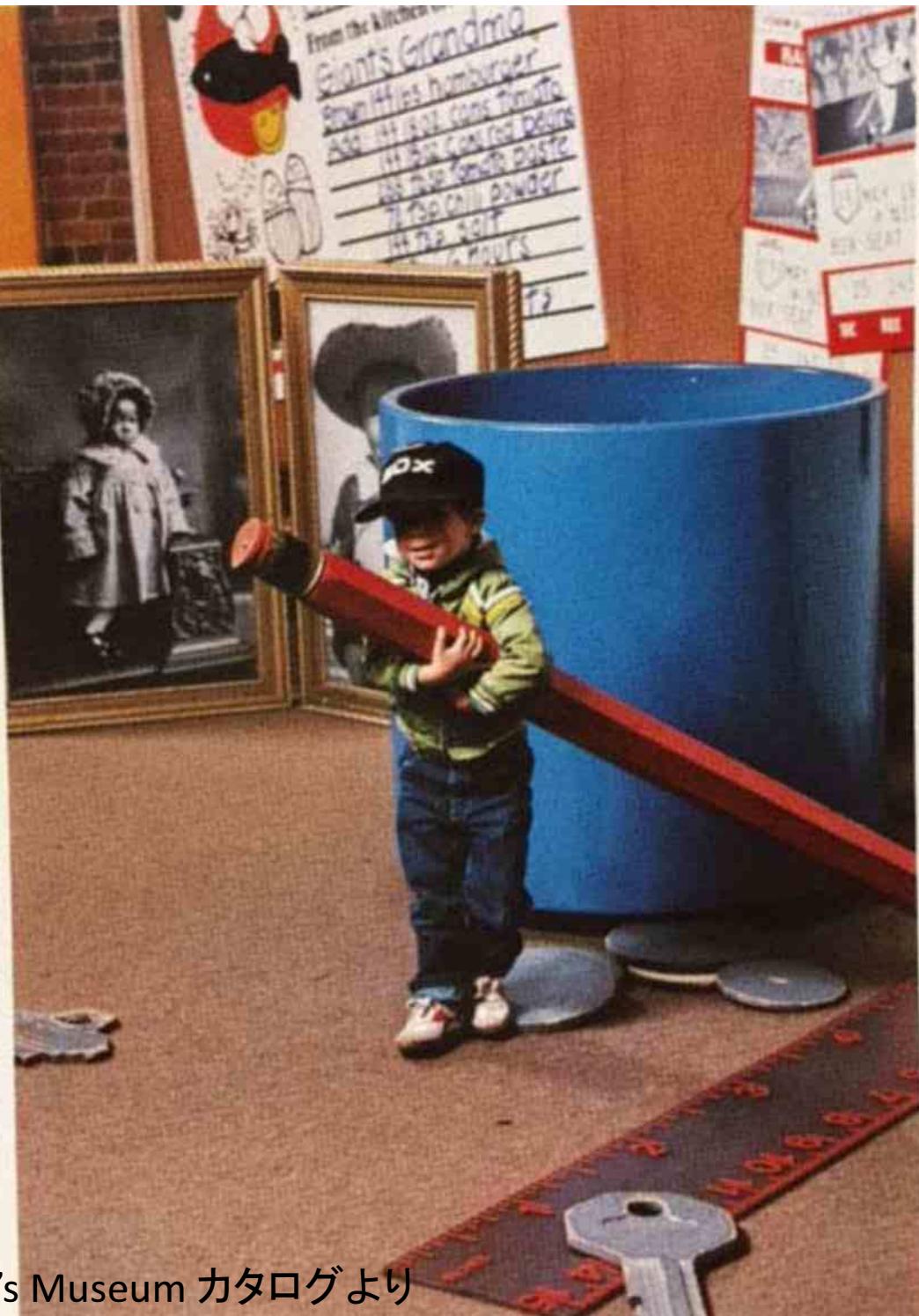
With the opening of *What's Inside?* Boston Children's Museum launches a museum revolution, removing the 'Do not touch' signs, and pioneering hands-on, visitor-focused exhibits and programs, a model now used in museums around the world.



1970

The *Grandparents House* exhibit offers role playing experiences in social history and stimulates conversations across generations.



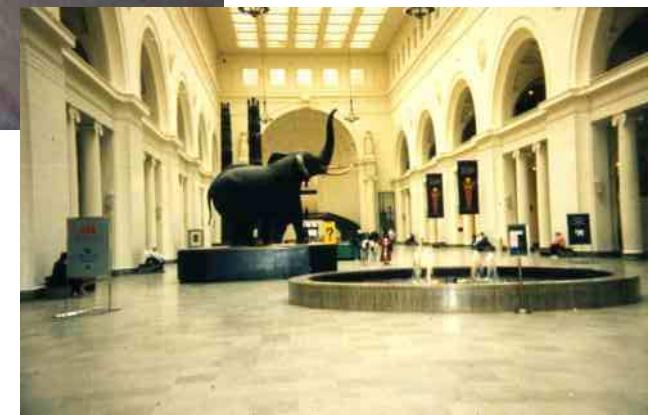


Boston Children's Museum カタログより

巨大な机 「ジャイアント・デスク」 1974



マイケル・スポック1994
「サイズ」シカゴ・フィールド・ミュージアム



Michael Spock in 1994
Exhibition "SIZE" at the Field Museum in Chicago



1976

What if you couldn't...?



シティ・スライス



Boston Children's
Museum カタログより



1979

1928

The Miss Kyoto doll is given to Boston by Japan as a symbol of friendship. She becomes a part of the Museum's cultural collections, which grows to more than 45,000 objects by 2013.







2011年の東日本大震災の時には、すぐにジャパンハウスに「祈りの木」が作られ、来館者が思いを込めて葉っぱに書き込んだ。

1990

The *KidsBridge* exhibit addresses prejudice, discrimination and racism. Smithsonian Institute Traveling Exhibitions Services tours the exhibit to venues across the U.S.

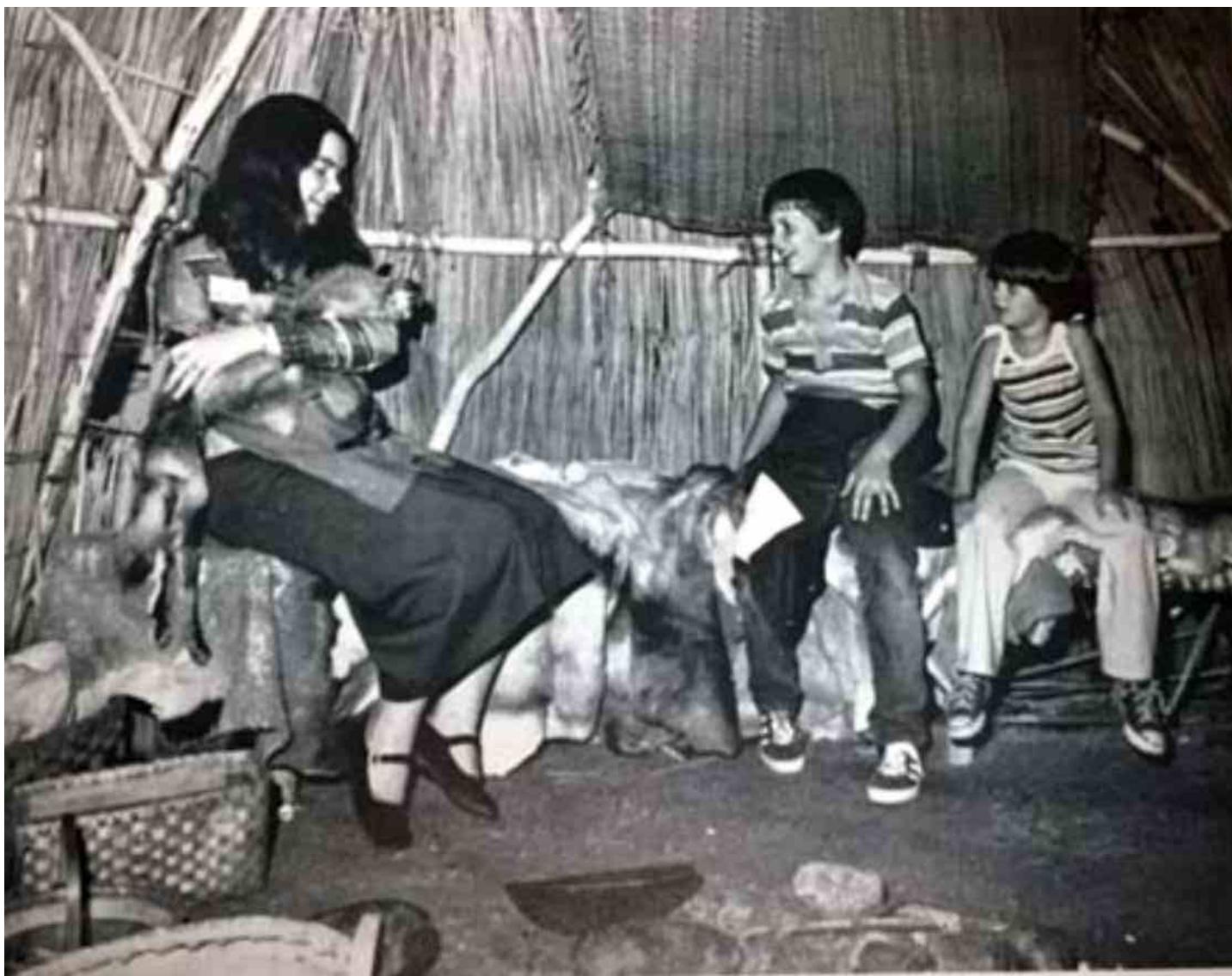


Boston Children's Museum カタログより

1992

ティーン東京
Teen Tokyo

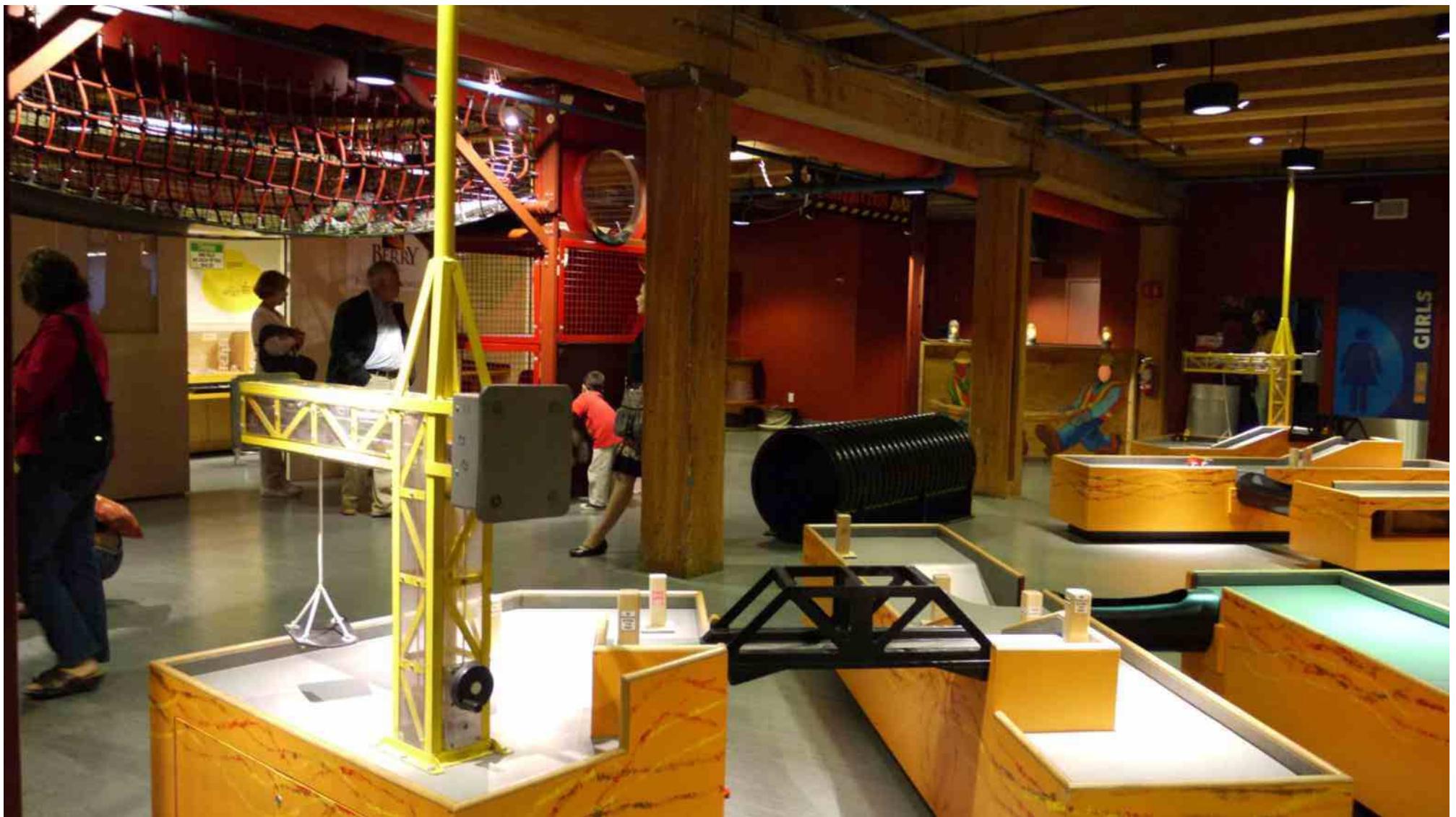




Boston Children's Museum カタログより



アーティストとともに
つくったジャングルジム



埠頭の仕事を体験できる展示





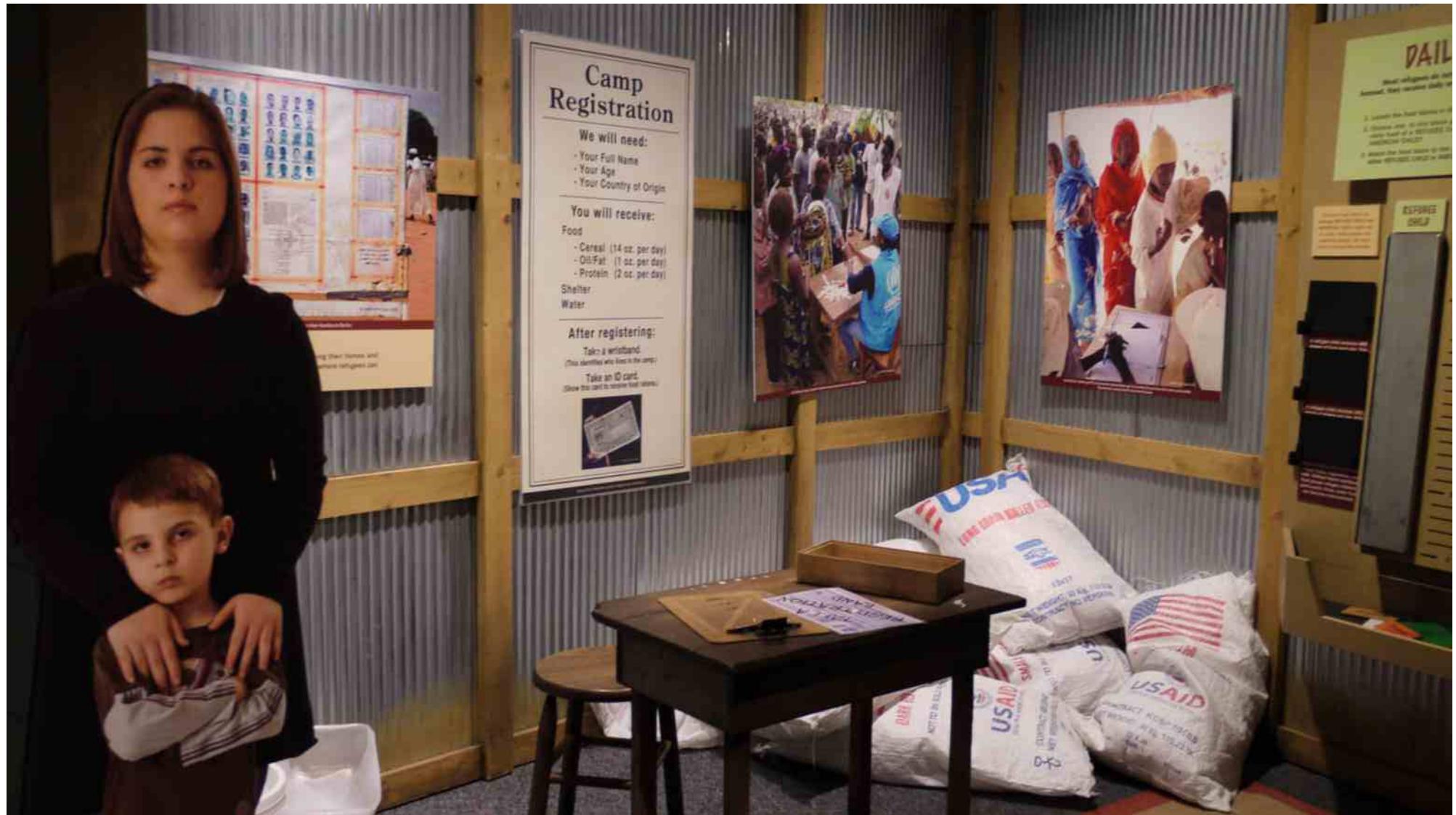
ボストンこども博物館「避難民」2011



Build your own SHELTER

The Kibumba camp in Democratic Republic of the Congo (DRC) housed refugees from neighboring Rwanda.

UNHCR/A. Hollmann 1994





Going Home?



Reflection

Share your
thoughts here





Boston Children's Museum カタログより

1972～



スモールサイエンス（小さな科学）：
科学者や芸術家は、単純な日常の技術を使つた「遊び／プレイ」を通して複雑な世界を魅力的に表すことができる。

インタラクティブ展示 ハンズオン



法兰克・オッペンハイマー
1969～1985 館長

エクスプロラトリウム

利用者が行動し、情報を集め、選択肢から選び、結論を出し、スキルを試し、インプットを行い、そしてインプットによって実際に状況を変えることができるものである。

できるだけ多くのバリエーションをつくることが重要。

「何か動くのを見ても、限られた理解しかできない。自分でその動きを制御して、そこで何がおこるかを見なければならない。」

参加や相互作用によって、展示環境が利用者にとって個人的なものとなるからである。

「直接目で見ること、聞くこと、感じることを通して科学を紹介する。顕微鏡や電子装置、芸術、文学などの道具を使っての知覚があるが物事を理解し、解釈するためにまず知覚を使うのだ。」

フランク・オッペンハイマー



エクスプロラトリウム Exploratorium, San Fancisco 1993



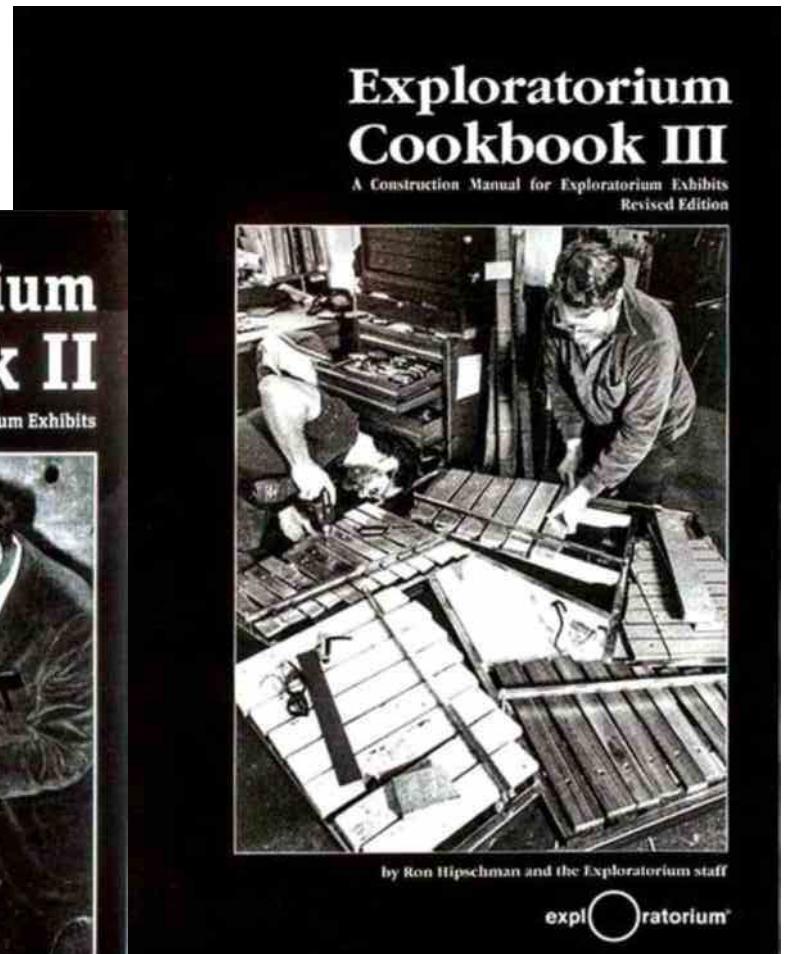
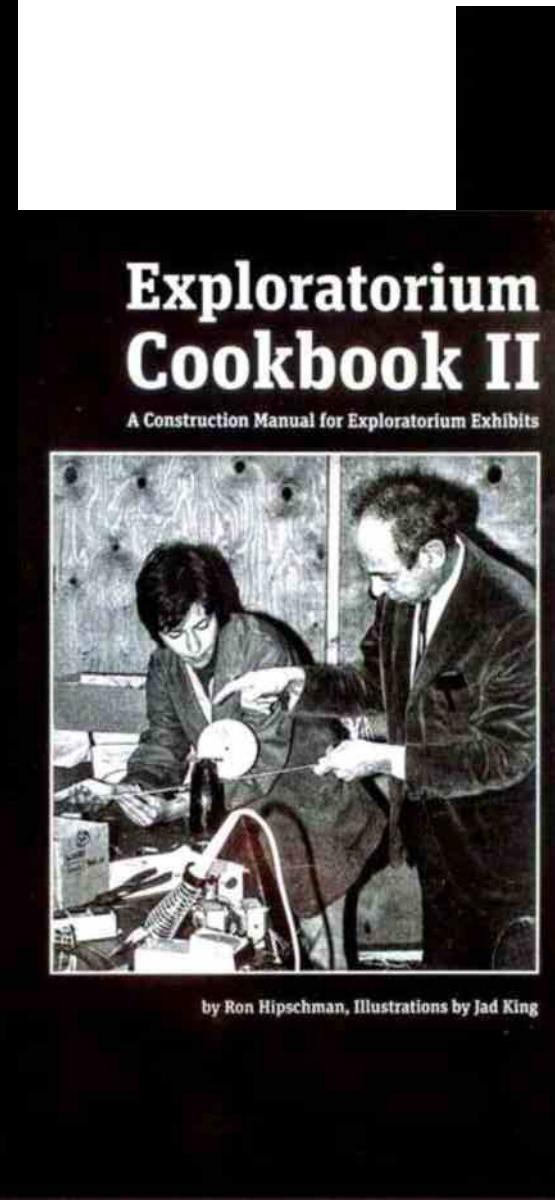
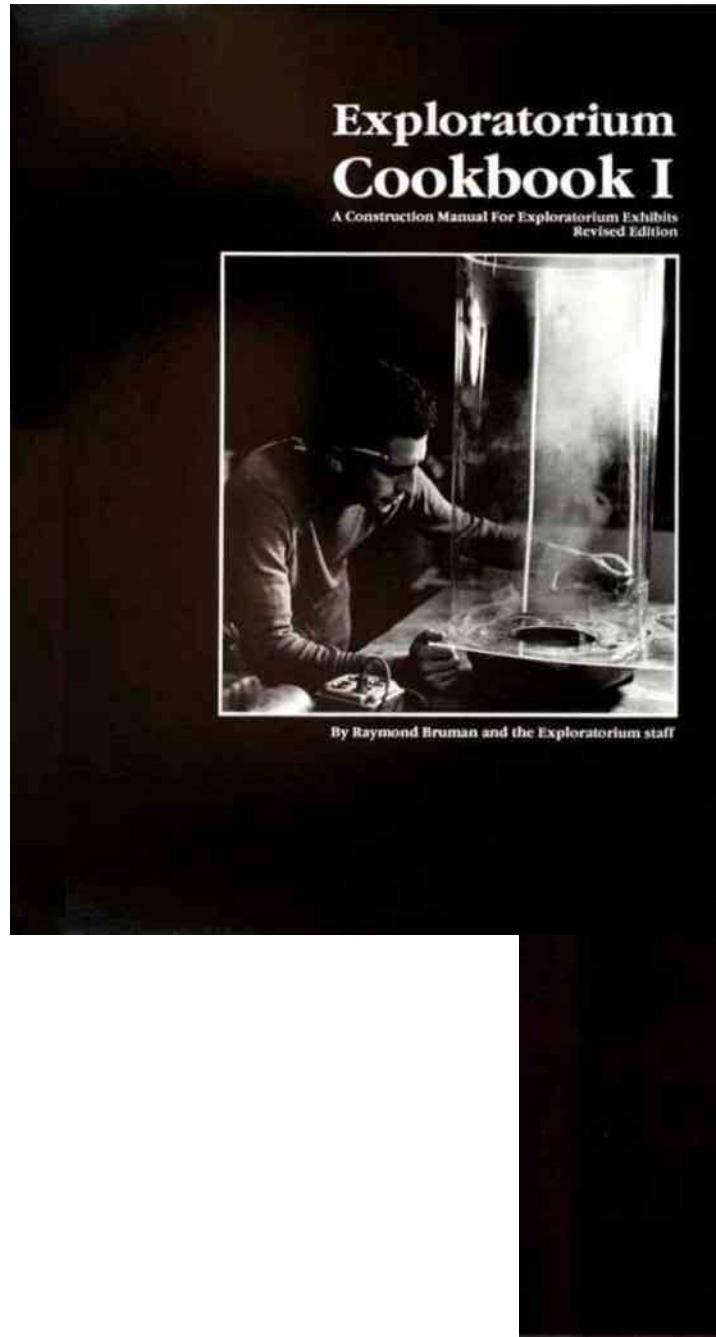
エクスプロラトリウム1993











「エクスプロラトリウム」ハンズオンの展示画面の本『クックブックI.II.III』



キッズアワードを受賞したハーバード大学のハワード・ガードナー

Kids Award: Howard Gardner in 1993
Association of Children's Museum

ハワード・ガードナー

1988 AAM 米国博物館協会 American Association of Museums

子どもがあらゆる知能をもちいるように、それを評価できるようにデザインした環境について言及。

楽器や自然界の珍しい標本、肉挽き器などの機械、ゲームやストーリーボード、美術用道具、部屋の模型や人型などがある。ガードナーのアプローチを用いると、展示が来館者の多様な知能を惹きつけるには、音楽や音、物、インタラクティブな要素、説明ラベル、静かに考えることのできる場所、インタープリター（展示場で解説・交流活動を行なうスタッフ）や他の来館者と交流する活動の場所などを設けるとよい。

ミュージアムのスタッフが考えるべきなのは、学習者がもつ潜在能力だけでなく（音楽的、空間的、身体・運動的知性を活発化させる）すべての感覚を働かせることで来館者が関わる多元的な方法である。

人間は思考と創造性を表現するのに一連の独特な認識の様式を持っているということ。「多重知性（知能）論」はこれらのすべての認識の様式を重んじるため、伝統的な学校での成功に結びつけられてきて様式だけを論ずることはない。

ハワード・ガードナー 心理学者『多重知能』 The theory of Multiple Intelligences The Unschooled Mind

各人が持つ潜在能力には高低の差があると考える従来の学習のアプローチとは異なり、知能には7つの別個の形式があるとする。後にさらに増える。

言語的知能：話言葉と書言葉に対する感受性、言語を学ぶ能力、及びある目標を達成するために言語を用いる能力。詩人

音楽的知能：音楽的パターンの演奏や作曲、鑑賞のスキルに関係する能力。
ミュージシャン

論理数学的：問題を論理的に分析・数学的な操作を実行・問題を科学的に究明する能力に関係する知能。数学家

空間的知能：広い空間のパターンを認識して操作する能力／限定された範囲のパターンについての能力。アーティスト

身体的知能：問題解決や何かを作り出すために体全体を使う能力。パントマイム芸人

対人的知能：他人の意図・動機づけ・欲求を理解し、他人とうまくやっていく能力。教師

内省的知能：自分自身を理解する能力。自分自身の欲望・恐怖・能力も含め、自己の効果的な作業モデルをもち、情報・自分の生活を統制するために効果的に用いる能力に関係する。哲学者

+

博物的知能

実存的知能

それぞれの知能は独立している。

“Museum Education” に関連した理論家たち

John Dewey (1859-1952) “Learning by doing”

ジョン・デューイ

Lev Vygotsky (1896-1934) “Constructivism”

レフ・ヴィゴツキー

Jean Piaget (1896-1980) "genetic epistemology"

ジャン・ピアジェ

Paulo Reglus Neves Freire (1921 –1997) “Critical pedagogy”

パウロ・フレーレ

Maxine Greene (1917-) “wide-awareness”

マキシン・グリーン

Mihaly Csikszentmihalyi (1934-) “the notion of flow: motivation and immersion”

ミハイ・チクセントミハイ

Howard Gardner (1943-) “Multiple Intelligences”.

ハワード・ガードナー

鑑賞者の能動的な学習に基づく構成主義教育の 展示の特質

ジョージ・ハイン

- どこから見はじめてもよく、決められた順路や始まりも終わりもない。
- 様々な能動的な学習様式を提供する。
- 様々な見方を提供する。
- 来館者の人生経験を活用するような様々な活動や体験を通じて、彼らと資料（および考え方）を結びつける。
- 学校向けプログラムにおいて生徒が実験を行い、推量し、結論を導くような経験と資料を提供する。

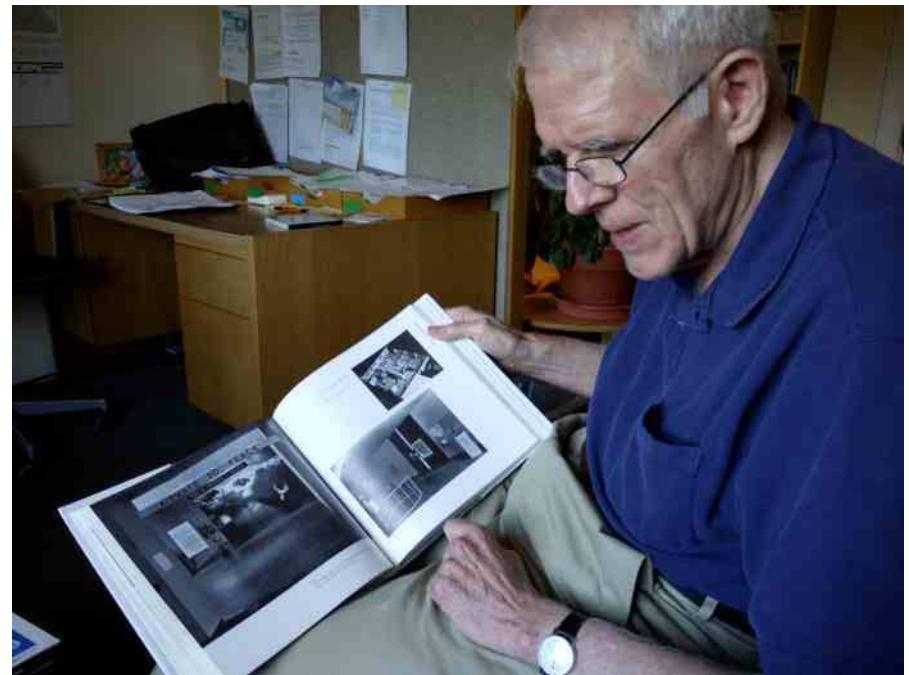
『博物館で学ぶ』 ジョージ・ハイン 2010年同成社 p56

参加体験型の展示を伴うハンズオン、マインズオン

Hands-on & Minds-on=Interactive Approach



Michael Spock in 1994
Exhibition "SIZE" at the Field Museum in Chicago



2011 at Chicago History Museum

「聞いて忘れ、見て覚え、行なって 理解する」

“I hear and I forget, I see and I remember, I do and I understand”